

◇ 新刊紹介

朝倉家録 富山県郷土史会編集発行

昭和五七年四月刊 B5 三〇一頁

この書は、現在富山県立図書館に所蔵されている写本を写植印刷したものである。写本の末尾に天正五年四月書とある。『朝倉始末記』の諸本中もっとも古いか、またはそれに近い貴重な資料である。

本書は「朝倉軍談上・下」「朝倉家之系図」

「朝倉家記巻一」の三編から成り立っている。特に「朝倉家記」には他の『朝倉始末記』にはない文書（案文）が収載されており、注目に価する。

「朝倉家之系図」も、義景について、孝景の実子でなく、佐々木氏綱の末子を嗣子とし

たと記しており、また義景の嫡子の名も阿若丸と正しく記しておるなど、興味深い。

付録として、松原信之・白崎昭一郎・重松明久三氏の既発表の論文を掲載している。このうち松原・白崎両氏の論文は本誌に発表されたものである。
(杉原丈夫)